幸区区民会議　第6回専門部会Ｂ「子育て・環境・魅力づくり部会」

□開催日時　平成19年3月5日（月）　午後6時30分～8時40分
□会場　　幸区役所プレハブ会議室
□参加委員
　専門部会Ｂ委員　今井淑子部会長、松世三重子副部会長、小保方健次、酒井道子、
　　庄司佳子、菅野勝之、成田信子、根本健、深瀬和則（欠席：小島春男）
　事務局（総務企画課）　大八木総務企画課長、高橋主幹、北谷主査、上松職員、吉田職員
　㈱ＣＳＫ　福田研究員　（以上15名）
□次第
　１．第5回企画運営部会の概要
　２．平成18年度幸区区民会議中間報告書（案）について
　３．「安心して子育てできる環境づくり」について
　（１）「みんなで子育てフェアさいわい」アンケート結果
　（２）「みんなで子育てフェアさいわい」での絵本の読み聞かせ（ビデオ上映）
　（３）具体的な取組みについて
　４．その他
　（１）健康づくりふれあい講演会の開催および参加者アンケートの実施について
　（２）幸区地域防災計画（案）について（情報提供）
　（３）その他

□開会

①本会議の情報公開に関する委員の了承。
②次第、配布資料の確認。

１．第5回企画運営部会の概要

第5回企画運営部会（2月23日開催）の結果について、松世副部会長から報告があった。特に、質問はなし。

２．平成18年度幸区区民会議中間報告書

事務局（北谷）が「平成18年度幸区区民会議報告書」の概要について説明した。また、資料2、資料3について説明し、意見交換を行った。とくに部会員からの意見はなく、企画運営部会案の内容で了承された。なお、専門部会Ａで出た訂正は以下のとおり。

【Ａ部会で出た訂正】

□はじめに（1ページ）
①「この中間報告書は、～」⇒「この報告書は、～」
②「1年目の報告としまして、」⇒「1年目の中間報告としまして、」
③「報告してまいります。」⇒「報告いたします。」
□9ページ
①「次善の策」⇒「事前の策」

３.「安心して子育てできる環境づくり」について

事務局（高橋）が、これまでの検討内容について説明し、具体的な部会での取組みについて検討した。また、具体的な検討の参考として、「みんなで子育てフェアさいわい」（2 月 17 日開催）で実施されたアンケート結果の報告、絵本読み聞かせのビデオ放映を行った。

（１）「みんなで子育てフェアさいわい」アンケート結果

（２）「みんなで子育てフェアさいわい」での絵本の読み聞かせ（ビデオ上映）

（３）具体的な取組みについて

今井　今後、この部会でどのような取組みをしたらよいか意見を皆さんからいただきたい。

菅野　行政は範囲を小さくする。部会の第 1 回目もそうだった。市の行政が予算を補助する団体を市民活動とする資料を出した。市民活動とはもっと幅広いものだ。行政が予算を補助するものだけに小さく絞る。このフェアを前面に出すと、その内容が前面に出て、そこからしか発想ができなくなる。

二つ目の問題点は、子育てを全体的に見る観点をどうするか。子育てを全体としてどうするかをまず考えないといけない。今まで幸区で作った財産を、行政はもっと利用してもらいたい。まちづくり推進委員会は第 1 期に町内会館、こども文化センター、老人いこいの家など公的な利用できる施設を網羅したパンフを作った。場所が足りないというが、町内会館などまったく利用されていない。まちづくり推進委員会が 6 年間やってきたのは何だったのか。これは地域振興課だけでなく、全区役所で場所がないという人には、町内会館にあたってみましたかという聞き方をすればいい。パンフレットを地域振興課に聞いたが、もうどこかにいってなくなっており、資料として残っているだけだという。僕たちは資料として作ったわけでなく、区民に利用してもらいたいから、64 の町内会を歩いて資料を作成した。学校の開放状態がどうなっているかもすべて網羅している。行政と区民が協働して作った資料は財産として利用してもらいたい。

三点目、中間報告書自身は僕たちがこういう討議しかしてこなかったのだから賛成だ。しかし、あと一年間がこれと同じ形態になるなら反対だ。もっと広い視野で物事を見ないといけない。区民会議は提言する場所、まちづくり推進委員会は実践する場所だ。例えば、子育てグループがどうなっているかは、町内会関係と社会福祉関係に行って聞いてきた。区は市から助成が出ているときは区の社会福祉協議会が握っていた。市から助成金が子育てサークルに出なくなった。それはどこに行ったかというと、地区の社会福祉協議会に移行した。西御幸地区などは地区の社会福祉協議会が活発にやっている。市から助成金が出なくなって、沈没した地域もある。そういうことをまちづくり推進委員会では調べてきた。問題はネットワークを作るというときに、そういうことを一つひとつ調べていく。それは区民会議が調べるのではなく、行政がやらないといけない。行政は私たちが発言しないと勝手に調べるわけにはいかない。次回からはそういう形で、社会福祉協議会の子育て関係、母子手帳との関係で保健所関係、市民館、この 3 つについては行政で調査をしてもらいたい。

今井　菅野委員の意見も参考に、他にご提案、ご意見はないでしょうか。場所を調べたのはどこですか。

菅野　町内会館、公的な建物、小中学校の開放などだ。第一期が終了する年に作成したの

で、4年前のものだ。

今井　まず、未就学児の遊び場、子育ての交流の場ということで場の問題がある。あとは、サポートをどうしていくかだ。

庄司　アンケートや皆さんの意見を聞くと、つながるための情報。新しいお母さんが増えている。お子さんで一人目の方は情報を持っていない。場と情報が重要だ。場については、市民館の子育て広場はキャパの関係で、30 分で参加者が埋まるほど需要が高い。日吉分館では公立の保育士さんが来ているので、月に1回しか開催できない。保健所が出している「子育て情報カレンダー―お散歩に行こうね」と言う情報誌があり、それを見るといろいろな場はあるが、情報が十分に行き渡っていないというのもある。

今井　市民館でやっているのはボランティアか？

庄司　ボランティア講座を開催して保育ボランティアを育成している。

成田　情報という点で言うと、幸区は子どもが生まれた時点で保健師さんが来て、お母さんの一ヶ月のケアをする人がいる。派遣をして各家庭に入る。そこから情報が出ていると思うが、どういう方法で紹介をしていいのか、地域的にどういうものを紹介したらいいのか、私も情報が把握できてない。保健師さんがどこまで入り込んでいるのか情報として欲しい。

今井　そういう場や機会を増やすことと、その情報をどう浸透し知ってもらうかだ。

　庄司委員が言うように、すぐにいっぱいになってしまうのに月一回しかできないのは理由があるのか。

庄司　人的な問題だ。

菅野　人的な問題と予算の問題だ。地域セミナーは持ち出しの方が多かった。

庄司　公的な保健士さんは予算なしで市の職員が来る。保育園自体が厳しい状況で、月一回出るのがやっとだ。

成田　マンションが増え若い世代が増えたことによって、私学の幼稚園も保育園も並んで入るという状況だ。私学でも前の日から並ぶ。アンケートに一時託児所が欲しいとある。

菅野　行政は待機児童の状況などを握っている。その情報も出してくれ。まずそういう子どもをどうするのかから区民会議は討議するという部分もある。必ずしもそれを討議するということではないが、問題点を知っておく必要がある。

今井　ファミリーサポートという制度がある。講習を受け、基礎知識をもってもらい、その方たちが、近所の子どもを自宅で預かる制度だ。そういう世帯を増やすと、遠くまでいかなくてもよい。預けるのにお金がかかる。何時間にもなるとお母さんの負担が増える。ファミリーサポートの研修を受け、ネットワークを作りましょうというのは悪いことではない。高齢者のヘルパーのように、子育てヘルパーの講習を受け地域で支えあいましょうというのはいいことだ。ボランティアでは続かない。お金の問題がある。

庄司　区内のあるマンションでは、お母さんがウェブサイトで双方向の情報を交換し、預けあいが始まったと読んだ。新聞によると、そういうものがいくつかあるそうだ。そういう情報も際立ってないし、やりたくても一人ではできない。一つひとつ問題を整理して考えないとごっちゃになる。

　保育園、幼稚園など、昨年から前日から並ぶようになったと聞いた。北加瀬に新しい保育園もできるが、すぐ埋まるだろう。幼稚園前の3歳くらいまでの遊び場と、幼稚園、

保育園など機関を整理すると、問題点が見えてくるのではないか。根源は一つかもしれないが、整理は必要だ。

深瀬　お金をとらなければ、研修など必要ないのか。

庄司　命を預かるので、いろいろな問題がある。

今井　研修を受ける利点として、基礎的な知識を身につけることもあるが、研修を受けることで保険に自動的に入れる。大きな組織が上にあるので、自動的に保険に入る。気軽に預かっても、万が一ということがある。自分の子供と一緒に預かるというやり方もできる。

深瀬　そういう研修を受ければ、お金をとってもいいということか。

大八木（事務局）　事業として保育料をとるには保育士という資格が必要だ。ボランティアの例は、保育料ではなく実費弁償として、食事代、ミルク代など、預かる上で必要なものを取る。実費弁償はお互いの了解の問題なので、必ずしも保育をする人に資格がなくてもできる。ただし、命を預かるので、市の制度としては、子育てサポートの制度を作り、保険に入れている。

保育園は認可保育園、それに準じた保育園、無認可保育園などいくつかの種類がある。認可保育園がまかなっている数と、実際に必要としている数の数え方に違いがある。保育されている児童の数に無認可まで含めるかどうかで、カウントの仕方も違ってくる。行政が情報を出さないのではなく、カウントの仕方をきちんと説明しながら保育計画などで数値は出している。幸区は平成 12 年から人口が増えており、当時想定した保育園の基本計画と現状があってない。市長への手紙などいろいろなものを活用して、区として意見を言うなど動いているが、すぐ施策に結びつくか、保育園の整備に結びつくかというと難しい。

今井　ファミリーサポートの仕組みは数年前に調べただけなので、現在の仕組みを参考に報告してくれ。

大八木（事務局）　労働省の関係できていたと思うので、一定の決まりがあると思う。

庄司　制度に加えて使用の実態を調べて欲しい。以前、保育ママという仕組みがあったが、ほとんど使われてなかった。

大八木（事務局）　児童の方で持っている資料があれば話をしておく。

菅野　幸区の幼稚園協会の会長である小峰幼稚園、小鳩幼稚園などではデータをつかんでいるのか。

大八木（事務局）　幼稚園は教育委員会なので、データとしては持っていない。区で情報を持つ保育園とはまた別になる。

小保方　何でもお金だ。私たちが子供のころは神社やお寺で自由に遊んだ。今は入ると怒られる雰囲気がある。神社仏閣はすごくいいところだ。寺子屋という言葉もあるとおり、施設は開放してくれるはずだ。神社仏閣を開放してくれるように運動する。人から教わるのではなく、自分から自由に遊べる場所は神社仏閣だ。お金も大事、サポートも大事だが、お坊さんにお説教を聞きながら開放してもらえばお金もかからない。

いろいろな行事をしたときに、幸区は交通が不便だ。今日みたいに風の強い日は、行きたくても行けない。バス等くまなく動いていない。乳母車で傘をさしていくのは大変だ。麻生区のコミュニティバスのようなものを幸区も走らせる。学校、保育園の前に自

転車を止めておくと、必ずクレームが来る。幸区もコミュニティバスの運動を起こし、くまなく動ける形をとるところにお金を使う。資格の問題など大変だと思うが、自然に帰り、自然に動かしてもらえることをみんなで取組みたい。

菅野　正式に幸区の中の神社、お寺で入ってはいけないというところはない。お墓は入れないところがある。形式上は、入れないお宮、お寺はない。

庄司　幸区の子育て広場古市場は、南加瀬や日吉地区の人も行っていると聞いたが、雨の日はつらい。

小保方　バスを乗り換えないと行けない。

菅野　僕も区役所までバスを乗り換えてくる。一昨年の区民祭にコミュニティバスを運行した。乗る人はたくさんいる。バスが自由化してルートは決められるが、儲からないとダメだ。市営バスは赤字なのでコミュニティバスは難しい。川崎駅から川崎病院までは黒字だが、麻生区のコミュニティバスは赤字だ。臨港バスは新川崎の近くにターミナルができれば考慮に値すると言っている。やるとは言ってない。新川崎の近くの駐輪場は1,600台あるがいっぱいになった。鹿島田駅の裏にも駐輪場を作ることになった。そういう意味では、行政、とりわけ区役所もバスが必要なのは知っている。操車場のバスターミナルがひとつできるそうなので、線路の向こうとこちらをどうするかという話はある。臨港バスも儲かれば考慮に値するという返事だった。

庄司　小さな子をつれて遠いところに行くのは無理だ。日吉地区にも気軽に親子で来て遊べる場があるとよい。日吉地区にはない。

菅野　新鶴見の操車場は32ヘクタールあり、緑の公園になる予定だ。

酒井　北加瀬にできる保育園に子育て支援センターが合築されてできる予定になっている。そうすると、行きやすくなる。

小保方　それでも自転車で行く。そうなると、隣近所の人が邪魔だとなる。

酒井　古市場の話をすると、幼稚園跡地でかなり広い敷地があった。園庭も広かったので、駐輪場がある。道路に止めることは一切ない。ベビーカーで来るので、それを止めるスペースもある。最初は幸区のはずれと言われたが、小倉、北加瀬、南加瀬など広範囲から利用者が来る。今でも180から200人が毎日来る。80組以上が毎日来る。お昼も食べられるので、一日中いる人もいる。

　先日、運営懇談会で話し合いをした。利用者からいろいろな希望が出る。今年度から月一回土曜開所しているが、二回開所してほしい、日曜も開放してほしいという声が出る。ボランティアの力が大きいが、土曜開所をし、全親の 35%ほどのお父さんが子育てに参加し、来るようになった。

深瀬　日曜日の要望も多いのか。

酒井　日曜日やったことがないので、どのくらい来るかわからないが、土日の開所希望は多い。土曜日も150人近くが利用する。利用希望は多い。

　子育て支援には二通りあると思う。一つは働くお母さんたちの支援。一つはお母さんが家にいる人の支援。

　働く人には保育園の充実、待機児童をなくす。急に子どもが病気になったときに預かってもらえる病時保育園がない。多摩区にはエンゼル保育園があるが、登録していないといけない。急に病気になったときに預かってもらう。保育サポート制度も、受け入れ

る側が幸区は少ないと聞いたことがある。保育サポートも登録制と聞いた。登録していないで急に病気になったときに困る。これが働くお母さんの悩み。

家で育てている人たちの悩みは、アンケートにもある、遊ばせる場が欲しいという要望だ。他の区は何箇所か子育て支援センターがある。幸区は古市場と今度北加瀬にできて二つになる。古市場は広いので、多いときで 300 人近く来る。園庭いっぱいで遊んでいる。

今井　行政には、北加瀬の次の計画はあるのか。

大八木（事務局）　保育園の新設は、市の保育計画で決まっている。年次計画で整備する。現在計画の見直しをしているが、具体的な計画は北加瀬の後には出ていない。

小保方　他区と比較して、幸区は子育ての予算は少ないのか。5500 万のどの程度使っているのか。パーセンテージでよい。

大八木（事務局）　どこまで子育てと見るかによって、予算の額も違ってくる。区の子育て予算は、必ずしも 5,500 万とは限らない。

菅野　区によって活動の内容が違うので、どこまでを子育てと考えるかだ。

酒井　以前は幼稚園跡地ということで教育委員会だったが、昨年から健康福祉局に移管され、ぎりぎりの予算で運営されている。ボランティアが手伝わないと見ていられない。古市場は平成 13 年度から試行し、早くからボランティアが参加し、他と比較して活動も円滑にやっている。正職員は一人。非常勤は二人。ボランティアがいないと厳しい。

成田　幸フェスタは大変盛況だった。子育てフェスタとなるとどっと人が来て、情報を持って帰りたいのだろう。ただ、近場で、常に支援してもらえるなら、自転車で通えるところがよい。古市場、北加瀬となると、次は日吉にも、となる。河原町小学校跡地とか地域にひとつ支援してもらえる場所があるとベストだ。その中に、働いているお母さんの一時託児所を設置するなど、広がっていける部分があるとよい。家庭の中にいるお母さんが孤立しない部分でのサポートがしっかりとできる拠点になることが一番大事だ。総合的なサポートができることが大事だ。

今井　支援センターを増やす、廃校を使うというハードなことは、行政としてすぐ動けることではない。その点は行政が検討を進めないといけない。

菅野　学校は教育委員会で国の資産が半分入っている。市だけでは動かせない。国体の事務所になったり、生涯学習振興団として使うなどが実情だ。

今井　ハード面は難しい。

松世　保育園、幼稚園に通ってないお母さんは、お金を使わず、とにかく安全で子育てできること。今は、公園に遊具がなくなっている。犬の糞で汚いということで、花や木もなく、公園が無味乾燥だ。町会では花を植えようという声がかりが盛んになっている。小保方さんが言ったように、施設で遊ぶのもいいが、公園の環境づくりなどに重点を置き、お母さんたちが身軽に、安全に子供をあそばせる環境づくりがいい。また、土曜や日曜は、お母さんやお父さんたちが情報交換の場として施設を利用することは重要だ。子供を遊ばせるのは毎日のことなので、コミュニティの、外での遊びを提唱したい。

酒井　ＮＨＫのご近所の底力でも、公園でボール遊びができないことが取り上げられていた。いろいろな年代の子どもが遊んでいるので、小さい子どもを連れていったときに危ない。自由に遊ばせたいが、遊ぶときにいろいろな問題を考えないといけないのが現実

だ。支援センターはあちこちにはできない。市民館、こども文化センターなどでフリースペースが行われている。先ほどから聞いていると、コミュニティバスがいいなと感じた。区内を気軽に移動できる手段があれば、それはそれで子育て支援になる。

今井　遊ばせる場所は専業主婦の話になる。働いているお母さんをどうするかも考えないといけない。専業主婦のお母さんが子供と一緒に遊びに連れていける場所を多くする。もう一つは働いているお母さんの支援をどうするか。

個人的な意見を言うと、働いているお母さんの病時保育、保育園をハード面ではなく補う方法として、近所に老夫婦が資格をとり、孫を預かる感覚で子供を預かっている。子どもが来ることで家の中が明るくなりよかったといっている。定年した人のパワーを生かすことで、異世代交流にもなる。お金を払う払わないは別にし、力を借りる仕組みづくりが何かできないか。一時間何百円ということではなく、ボランティア的な要素が入る。ハード面は行政に検討してもらう。シニアの力を借りて仕組みづくりができないか。

今井　皆さんの意見をまとめると、遊ばせる場所を増やしていきたいということ。

酒井　働くお母さんの問題点、専業主婦で子育てしている人の問題点を、次回までに皆さんに考えてもらい、項目としてあげてはどうか。

今井　部会では場の問題、情報発信、交流の問題をとりあげるという方向で行きたい。

４．その他

（１）健康づくりふれあい講演会の開催および参加者アンケートの実施について

事務局（高橋）から 3 月 8 日（木）に幸区役所主催で開催される「健康づくりふれあい講演会」の内容について説明があった。

菅野　アンケートの主催が川崎市幸区役所、問い合わせが総務企画課になっているのだから、区が聞きたいことを聞けばよい。区民会議のアンケートは、全戸配布したものが 470 しか回答がない。まちづくりの時のアンケート回収数を調べてくれ。1,000 人近く集まっている。区民に答えられる内容かどうかが問題だ。6 万所帯に配布し 470 所帯とは何%か。アンケートをつくる場合は、発信するところが発信する責任で、自分たちが聞きたいことを聞く。回答に対しても責任をとる。

（２）幸区地域防災計画（案）について（情報提供）

事務局（大八木課長）が区の地域防災計画（案）について、情報提供という形で概要を報告した。

菅野　幸区が地区カルテをつくるときに、3 年間コンサルタントと喧嘩をした。一行の意見が違った。阪神淡路地震のときに、「隣近所が第一義」とコンサルタントが書いた。幸区民は「行政が第一義」にやる。世界的に見て、文化が進んでいればいるほど人的被害は少ない。十分かどうかは別に、行政が第一義の位置づけにしてもらいたいという意見だった。今回の計画を見ると、その点を行政がきちんと認識したという感じだ。私たちが作るのは、これを補完する意味で、区民は一人ひとりが何をするのかという冊子になっている。72 時間後までに区民が何をするかを中心に書かれている。

第二点は、これでもまだ不十分。お互いに協働で作らないといけない部分もある。一

つの例としては無線の問題。川崎市は協定を結んでいるが、会員は 54 名、一区に 10 名もいない。それでどう情報を集めるのか。無線を持っている人には全部参加してもらうなり、そういう人を育てることを、行政と一緒にやらないといけない。コンビニの水とトイレを借りる、ガソリンスタンドのジャッキを借りることについても、既に協定は結ばれているが、この取組みを充実させていくことを行政と協働でやらないといけない。

第三点は、鹿島田は小学校が日吉、下河原、平間の 3 つに別れている。平間小学校は中原区。古市場二丁目は下河原小学校。自主防災との関係は連絡網がきちんと言っているのかどうか。中原区の自主防災と幸区の自主防災は避難の関係で、整合性がどうなっているか。

大八木（事務局）　「わが家のハンドブック」で、平間小学校も幸区の避難所だと書いている。ただ、自主防については各区でやっているので、連携をしてやれとは言えない。広域連携が問題になっている。区同士でそういう点を含めやらないといけないという認識にはなっている。行政だけではできないので、地域の人がどう動いてくれるか。近いのでやっていけるとよい。

（3）その他

区民会議アンケートの結果については、3 月末に全戸配布をする。委員に事前配布する予定。

〔次回〕

4 月 17 日（火）18 時 30 分、プレハブ会議室で開催